

# はじめに

## 1. 三好ジオパーク構想のテーマ

「動く大地が創った、空へつづく集落と吉野川の流れ」

私たちの住む徳島県の西端にある三好市。この地には、ここでしか見られない特徴的な風景がある。

標高約 1000～2000m 級の山々からなる四国山地。剣山を筆頭にそびえ立つ山々に抱かれ受け継がれた秘境の郷「祖谷」。その郷は、四国の山深く険しい傾斜面に点々とあり、中世以来長きにわたって受け継がれてきた山間部の日本の原風景が色濃く残る地。

何人をも寄せ付けない、断崖絶壁の旧街道「大歩危小歩危」。四国内でも険しい街道であったその道は、いつしか訪れる人々を魅了する国内有数の美峡谷に移り変わる。

悲しみも喜びも与え続ける徳島県民のソウルリバー「吉野川」。増水により度々暴れ川と化したその川は、四国山地をでて讃岐山脈にぶつかり流路を東へ変えることで、災害も恵みもその流域にもたらし、徳島県特有の歴史文化を育んできた。徳島の歴史と切り離せない偉大で愛すべき河川。

「祖谷」「大歩危小歩危」「吉野川」などの色濃い文化に溢れ、心を打つ風景に溢れる地、それが私たちの住む三好市である。

この特徴ある風景を形づくったものは何か…？

それは約 3 億年間における地球の変動であり、その記録はこの地の大地に深く刻み込まれている。

祖谷をはじめとする傾斜地集落の緩斜面の多くは、地質・急峻な地形・多雨な環境によって引き起こされた過去の地すべり跡の上にできた。また大歩危小歩危をはじめとする四国山地の急峻な地形は、プレート運動により地下十数 km の深さから隆起することで作られた。そして徳島県が誇る吉野川は、約 300 万年前から始まった中央構造線の活動（地震）に伴う讃岐山脈の隆起によって池田付近で流れが北流から東流に変わり、現在の流路が生まれ、徳島平野を形作った。

このように、三好の大地にはプレート運動や中央構造線の活動が引き金となって生じた大変動が記録されている。そして、大地の変動と長きにわたって付き合ってきた人々の生活文化を深く感じることができる。

## 2. ジオパークとは

ジオパークとは、「Geo（地球・大地）」と「Park（公園）」とを組み合わせた言葉で、「大地（ジオ）」をベースとし、それと関わる独自の生態系や歴史文化などのつながりを通して、地球を学び、まるごと楽しむことのできる場所です。ジオパークでは、自然資源、自然災害、気候変動、教育、科学、文化、女性の社会進出、持続可能な開発、地域と先住民の知恵に焦点を当てた活動を行っています。

そのため各ジオパーク地域やジオパークを目指している地域は、地質地形の遺産を保全しながら、それらを教育・防災・ツーリズムなどに活用し、持続可能な発展を目指して活動に取り組んでいます。ジオパーク活動は行政や研究機関だけでなく、地域住民や地域の各民間団体が一致団結して取り組み続けることが必要不可欠です。

将来にわたってこの地球上で持続可能な暮らしをするために、ジオパークでは国連の持続可能な開発目標（SDGs）を達成するための取り組みを行っています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



### 3. 三好ジオパーク構想について

---

三好ジオパーク構想のエリアは三好市域から成り、その大地には、約3億年前から現在までの地球活動の記録を残す地質やプレート運動によってもたらされた地形が点在しています。

三好ジオパーク構想エリア（以下「当地域」と呼びます。）の地質の記録として、約3億年前の浅い海底で息づいていた生物であるサンゴ礁が石化したもの、2～1億年前の海底堆積物や火山噴出物がプレート運動によって地下十数kmに運ばれた過程をもつ岩石、そして約7500万年前の海底で息づいていた生物の生活の痕跡や海底下の様子などがあります。このように、全く異なる時代に異なる過程で形成された地層や岩石は、現在、四国山地や讃岐山脈の構成物として、当地域の大地を作り出しています。この原動力となったもの、それはプレート運動と“大地の切れ目”である中央構造線です。

当地域の四国山地の大部分を構成している結晶片岩は、数千万年前ごろに地下深くで圧力を受けてできた岩石であり、この結晶片岩類が作られる背景にもプレート運動が密接に関係しています。

また当地域北域にある讃岐山脈は、約300万年前から始まったフィリピン海プレートの北西方向への沈み込みに伴う中央構造線の右横ずれ運動によって隆起し、形成されました。

四国山地や讃岐山脈の形成は、その上の地形の変化をもたらしました。讃岐山脈の隆起によって、それまで瀬戸内へ北流していた吉野川は、約120万年前には讃岐山脈によって完全に遮られ、池田付近で東流するようになり、吉野川流域の平野形成に大きな影響を与えることとなります。また、四国山地の高峰や急激に隆起した讃岐山脈の斜面では、降雨や地震によって地すべりなどの斜面災害が頻繁に発生し始めます。斜面災害によって平野へもたらされた土砂は、平野の形成をより後押ししました。

これらの地球の活動が創り出した大地の上で、当地域の独自の文化が育まれました。この地域に特徴的な傾斜地集落は、山地斜面で地すべりが発生することで形成した、比較的緩やかな斜面の上に築かれた集落です。その傾斜地集落は山間部に点在し、中世以降長きにわたり人々が急峻な山間部で暮らして、現在にまで至っています。またそれら集落の交通路として活用された祖谷のかずら橋は、V字谷地形と生態系を活用し

て生み出された建造物です。さらに池田や辻などで発展した刻みたばこ産業は、山間部で栽培された葉たばこが尾根沿いの街道を通過して平野部にて加工され、吉野川の水運業を活用して徳島平野などに運ばれ発展しました。また、吉野川の東流によって中・下流域の藍作など、当地域や徳島県の特徴ある歴史文化がもたらされました。このように、吉野川流域全体の歴史文化にまで大きく影響を与えることになった大地の変動の記録がこの地に残されています。

この地質・地形の特徴、それに影響を受けた生態系、そして特有の自然環境の中で生まれた歴史文化は三好ジオパーク構想の宝です。三好ジオパーク構想では、これらのつながりを知り、地域資源を守り活用し、そして自然災害を乗り越えながら、これらの宝を将来につなげるための活動を私たち地域みんなを始め、民間団体、行政、研究者が一体となって行います。「この地を誇りに思い、この地で生きぬく」ために、ジオ（大地）をもとにした地域資源のつながりを存分に活用し、三好ジオパーク構想ならではの持続可能な地域社会を実現します。

